

専門部会（専門学科部会）での主な意見

H19.5.18 開催

1. 普・専・総の比率について

専門学科（職業系）の比率は、全国平均に比べて高いが、中国地区においては低い方であり、本県の産業振興や人口流出を踏まえ、専門学科の比率を高めるべきである。

ニートやフリーターという社会問題を解決するためにも、職業観や勤労観を培うキャリア教育を推進する専門学科の比率を高めるべきである。

生徒・保護者の希望も大切であるが、政策的に専門学科の比率を高めるべきである。

2. 各学科について

総合学科について

1 学級の総合学科など本県独自の考え方で総合学科を導入してきたが、選択履修という総合学科本来の趣旨に立ち返って考えると、今後、県内で設置できるのは生徒数の多い松江市又は出雲市ではないか。

総合学科は、選択履修というメリットがある一方、専門性という観点では中途半端になりがちで、生徒は安易な方向に流れやすい傾向が見受けられる。

職業系の系列については、専門学科とするのが良いのではないか。

生徒数の減少により、専門学科として維持できない場合は、総合学科の系列として取り入れることも考えられる。

水産学科について

水産高校は小規模であるが、学校としてはうまくいっていると感じている。

2つの水産高校を残すにしても、1つにまとめるにしても生徒数の確保という観点では課題がある。

- ・ 2つの水産高校とも地元及び周辺地域からの入学者がほとんどであり、どちらか一方にまとめた場合、他方の生徒が水産高校に進学するとは考えられない。

1つにまとめる場合、水産高校に進学する生徒には特別の奨学制度のようなものがあるのも良いのではないか。

食品系の学科の希望者が少ない状況であり、今後、学校でも検討したい。

水産学科が設置されていない県からの生徒の受け入れについても積極的に考えるべきではないか。その場合、寄宿舎の確保が必要である。

その他の学科について

工業は県西部の配置をどのように考えるのが課題。

農業は現状の配置で概ね良い。

商業は益田地区への配置を検討する必要がある。

家庭・福祉系列はすべての地域で履修できるように配置を検討する必要がある。

3. その他全般について

生徒が高校を選択する場合、近くの高校という要素はかなり大きいので、再編成を検討する場合、考慮する必要がある。

異なる大学科（例えば農業に関する学科と工業に関する学科）同士の統合では、それぞれの学科の活動等もあり、学校行事の調整など課題がある。

現状でうまくいっている学校は良いところを伸ばし、志願者が少ない学校をどのようにしていくのが今回の検討のポイントである。